

平成30年度指定管理者制度活用事業 評価シート(こども文化センター)

1. 基本事項

施設名称	麻生区第4グループ(片平・岡上)	評価対象年度	平成30年度
事業者名	・事業者名 NPO法人児童育成会コッコロ ・代表者名 菅原 敬子 ・住所 川崎市麻生区岡上120-4	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日～平成31年3月31日	所管課	こども未来局 青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	1 片平こども文化センター ①年間延べ利用者数	H29 37,642人	H30 34,649人	②年間延べ利用団体数	H29 855団体	H30 687団体
	2 片平小学校わくわくプラザ ①登録者数	360人	347人	②年間延べ利用者数	17,139人	18,295人
収支実績	3 栗木台小学校わくわくプラザ ①登録者数	444人	426人	②年間延べ利用者数	22,842人	23,412人
	3 はるひ野小学校わくわくプラザ ①登録者数	463人	446人	②年間延べ利用者数	22,478人	26,002人
サービス向上の取組	1 岡上こども文化センター ①年間延べ利用者数	22,391人	22,247人	②年間延べ利用団体数	285団体	276団体
	2 岡上小学校わくわくプラザ ①登録者数	142人	129人	②年間延べ利用者数	10,782人	8,294人
収支実績		単位:円				
1 収入		指定管理料				
2 支出		人件費				
		管理費				
		事務経費				
		その他経費				
		合計				
3 差引						
全館行事、区行事やグループ行事など、地域を越えた児童の健全育成を図り、交流の場づくりを行った。また、経費削減へ取り組み、施設修繕や遊具の調達を行うなど、利用者へのサービスの還元を行った。						

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	「仕様書」を遵守して適切な事業の実施がなされているか。	10	3	6
		「事業計画」に基づき、着実な事業の推進がなされているか。			
		「こども文化センター」の運営をすることにより、児童の健全な育成が図られているか。			
		「わくわくプラザ事業」を実施することにより、放課後児童の健全育成が図られているか。			
(評価の理由) ・仕様書・事業計画書に基づき、こども文化センター及びわくわくプラザ事業を適正に実施した。 ・片平こども文化センターでは、新たに「ジャグリング」遊びを導入するとともに、いこいの家との交流事業として、「将棋教室」を実施し、世代間交流を図った。 ・岡上こども文化センターでは、部活動や勉強で、なかなか、こども文化センターに来られない中高生を対象に、夜の映画会と併せて、「ナイト歌葉子シアター」を実施し、中高生とのコミュニケーション、居場所づくりに取り組んでいる。 ・乳幼児親子向け事業として、乳幼児親子の触れ合い遊びや手遊びを行うとともに、こども文化センター職員や保健師、栄養士に相談出来る「くりんくりんクラブ」を毎月実施した。					
サービス向上及び業務改善	利用者ニーズ	サービス向上のために、利用者等の意見を適切に把握しているか。	10	3	6
		利用ニーズを把握し、事業実施に適切に反映しているか。			
		苦情対応など、利用者への適切な対応が図られているか。			
	特別な配慮を要する利用者への対応	特別な配慮を要する利用者への対応が適切になされているか。	5	5	5
	学校及び行政機関との連携	事業の実施にあたり、学校及び行政機関、地域の団体等との連携がなされているか。	10	3	6
	施設・事業の広報	施設を知ってもらい、事業の充実を図るための周知の活動等に取り組んでいるか。	5	3	3
	運営協議会の実施	「こども文化センター運営協議会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3
保護者懇談会の実施	「わくわくプラザ保護者懇談会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3	
(評価の理由) ・利用者ニーズについて、意見箱の活用や利用者アンケート、子ども運営会議等を通して、利用者ニーズ把握に努めたほか、苦情等への対応も適切に行われている。 ・特別な配慮を要する児童への対応について、学校や保護者、職員全体で情報共有を行うとともに、障害についての研修に参加するなど、職員の資質向上に努めている。具体例として、障害のある児童の受入に際し、地域療育センター、保育園に相談して、受入体制を整えた上で関係者全員で共有し、日々の情報交換も保護者、放課後デイサービス事業所、学校などと密接に行うなど、組織的な対応が行われている。 ・学校及び行政機関との連携について、片平こども文化センターでは、しらかし園、片平老人いこいの家、川崎北部地域療育センター、片平・五力町町内会と連携し、「第3回かたひらなかよしフェスタ」を実施し、約500人の来場者を集めて、盛況に終わった。 ・施設・事業の広報について、施設・事業の周知のための広報等を定期的に行っている。 ・運営協議会の実施については、運営協議会が設置され、事業計画どおりに開催されている。 ・保護者懇談会について、懇談会が事業計画どおりに開催されている。					

組織管理体制	適正な人員配置	「児童福祉施設の設置及び運営の基準に関する条例」第54条に基づく職員配置がなされているか。	10	3	6
		「仕様書」において定める職員配置の最低基準が順守されているか。			
		「川崎市公契約条例」が遵守されているか。			
	職員の研修体制	職員の資質向上のために必要な研修が実施されているか。	10	3	6
職員が研修に参加しやすい仕組みづくりがなされているか。					
個人情報等の取扱	法人として、個人情報保護に関する規定や体制を整備しており、適正に取り組んでいるか。	5	3	3	
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 適正な人員配置については、こども文化センター及びわくわくプラザにおいて、仕様書・事業計画に基づき、適正な配置がされている。 職員の研修体制について、職員が市の研修を受講するとともに、法人としての基礎的な研修が行われている。 個人情報等の取扱について、個人情報保護に関する規定・マニュアル等や管理・監督体制が整備されており、個人情報保護等に関するトラブルがない。 					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な施設利用のため、施設や設備の保守・点検を適切に行っているか。	5	3	3
		必要に応じて適切な維持・補修がなされているか。			
		備品等の管理が適切になされているか。			
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保するための体制が整っているか。	5	3	3
		事故等が発生した場合に迅速かつ適切な対応が図られているか。			
		事故防止や感染症予防対策等が事前に図られているか。			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯対策に工夫がなされているか。	5	4	4
		災害発生時に備えた対応が図られているか。			
		災害発生時に適切な対応・行動ができる取組がなされているか。			
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の保守管理について、施設や設備の点検や備品の点検がなされており、必要に応じた維持・補修が行われている。片平こども文化センターでは、職員がフローリング床の補修方法を調べ、バテ埋めを行ったり、ニス塗布後にバンチングカーペットを貼るなど、利用者サービス向上に努めている。 利用者の安全確保について、利用者の安全を確保するため、マニュアル等が整備されているとともに、事故防止・感染症予防が図られている。また、アレルギー事故が発生した際には、適切な事後対応が行われた。 防犯対策及び災害時の対応について、防犯対策や災害等の発生に備え、対応マニュアル等が整備されているとともに職員に周知がなされている。また、災害発生時等に適切な対応が図れるよう消防・避難訓練を実施している。また、「片平地区地域防災訓練」、「岡上地区合同防災訓練」に参加するなど、防犯・防災対策について、共助・互助の取組を積極的に進めている。 					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	法人の規定等に沿った適切な会計処理と金銭管理がなされているか。	5	3	3
	効率的・効果的な支出	「事業計画」に沿った適切な支出がなされているか。	5	3	3
		効率的な執行に努め、経費削減に具体的に取り組んでいるか。			
		支出に見合う効果が効果を得られており、サービス水準も確保されているか。			
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 適正な金銭管理・会計手続について、法人の規定等に沿った適切な会計処理と金銭管理がなされている。 効率的・効果的な支出について、必要なサービス水準を確保した上で、「事業計画」に沿った適切な支出がなされている。 					

4. 総合評価

評価点合計	63	評価ランク	C
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

<p>片平・岡上の両こども文化センターは共に、施設内で地域子育て支援センターを実施していることから、日頃から乳幼児を持つ親から子育てに関する相談を多く受けているなど、一人ひとりの利用者との親密なコミュニケーションなど、丁寧な対応が行われている。</p> <p>また、岡上こども文化センターでは、悩みを抱えた高校生に継続的に寄り添い、傾聴を続けており、中高生の居場所としての機能を果たしていると評価できる。さらには元教員を巡回相談員として雇用し、巡回日を事前に周知したうえで、各施設を月に1回巡回し、児童の悩み、保護者の子育ての悩みの相談に応じている。その他、片平こども文化センターでは、近隣福祉施設や行政機関などとの連携により祭りを企画・実行するなど、地域に根差した施設運営が行われている。</p>

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

<p>今後も、地域社会全体で子どもを見守り育てる、安全・安心な居場所となるよう、環境整備や職員のスキル向上に努めること。特に、平成30年4月のアレルギー事案における反省点を踏まえ、再発防止に努めること。また、乳幼児を持つ親と子向け、中高生向けなど、対象年齢を捉えた効果的な広報に努めることが望ましい。さらに、職員の研修体制については、研修を受けた職員が、職場でその知識を共有化するしくみを作ることが望ましい。</p>
--